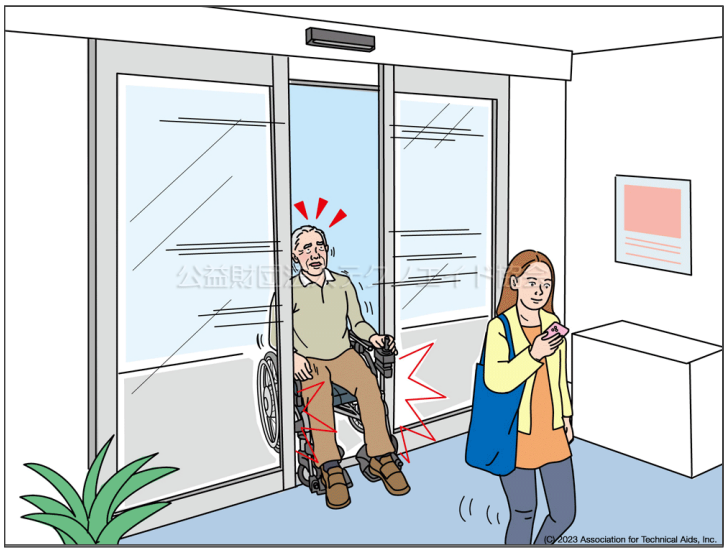
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：382

自動ドアを電動車いすで通過しようとしたら挟まれそうになる

場面の説明

電動車いすを利用し歩行者に続いて自動ドアを通過しようとしたが、ドアが閉まり始めて挟まれそうになった



利用シーン	移動
主な利用場所	ドア・自動ドア
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122127 (電動車いす)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

運転者が座った状態で利用する電動車いすは、自動ドアの上部に設けられたセンサーでは適切に反応しないことがあります。歩行者が通過したことで人がいないと判断され閉まり始めたことが考えられます。本来は、車いすの利用者を想定したセンサーの調整が望まれますが、センサーの特性を知った上での自主的な注意も大切です

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：通過中に閉まり始めるとは思っていなかった
人：子供の利用などでは閉まり始めることがあると気づいていたが大事になるとは思っていなかった
モノ：子供や車いす利用者の高さでは反応しづらいセンサーだった
管理：付近の人通りで開閉してしまうことが多く、狭い範囲で反応するように調整されていた

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.